

今だからこそ3C. Create, Change and Continue the Society with Concrete

特集 JCI名古屋大会

第28回生コンセミナー

JISにない「品質」 いかに確保するか

十河茂幸氏が基調講演

今回で第28回を数える生コンセミナーは初日の7日、13時から1日良いコンクリート構造物の施工のために良い生コンの製造を考えた「生コン」に開催される。生コンセミナー部会長は犬飼利嗣岐阜工業高等専門学校教授。

現状、建築分野では、建築基準法で指定建築材料とされているコンクリートには、JIS A5308性能なJIS A5308に適合するものを使用することが原則となっている。土木分野においても、発注者が仕様を定める場合を除いて、ほとんどの生コンがJISコンクリートとなっている。

JIS A5308では「強度」「弾性係数」「圧縮ひずみ」「空気量」「塩化物含有量」などが「品質」とされ、使用材料から製造方法まで規定されている。今回のセミナーではコンクリート構造物の品質を確保するためのコンクリートの品質確保に焦点をあて、施工性、初期ひび割れ抵抗性、耐久性、環境性能など、JIS A5308だけでは確保できない品質について共通認識を持ち、より良い生コンクリートの製造につなげることを目指す。

「閉館時間」がないため、展示内容の閲覧だけでなく、展示期間は大変と同じく7、8日の三日間だ。展示内容は、生コンクリート工業組合連合会技術委員長が主催する「生コンクリート研究会」の立場から、それぞれ行う。基調講演から話題提供まで、事前収録した動画を配信する。大会後も8月6日まで、展示技術へのアクセスのしやすさが格段に上がった。

バーチャルコンクリートテクノプラザ2021

気軽に歩ける仮想空間に

JCI名古屋大会の各行事ではオンライン開催に切り替えた制約がみられるなか、ある意味で「パワーアップ」したといえるのがコンクリートテクノプラザだ。近未来型技術展示会「バーチャルコンクリートテクノプラザ2021」と題して、インターネット上の仮想空間に展示会場を設けている。最新のバーチャルリアリティ技術と3D技術により、「まさに会場内を実際に歩き回るよう



バーチャル会場のイメージ

に展示を見ることのできる。展示内容も、バーチャルだからこそできる。具体的な

うなものとなっている(コンクリートテクノプラザ部会長・中村光吉)。

今回は49の企業・団体が出展。プラザのサイズは、大・中・小がある。当然ながら展示を見ただけではなく、従来のテクノプラザのように、出展者とコミュニケーションをとっていただけ



コンクリート工学年次大会2021(名古屋) 第28回生コンセミナー